

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和3年7月16日（金）10時30分～11時25分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

新井安全審査官、高松専門職

大辻室長補佐（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力規制事務所

木村副所長（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

プロジェクトマネジメント室 担当2名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所 担当3名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、主に以下の説明があった。
 - 増設多核種除去設備（以下「増設ALPS」という。）(B)クロスフローフィルタ交換及び増設ALPS(C)クロスフローフィルタ不具合事象の報告について
 - ✓ 昨年10月、増設ALPS(B)の運転時にバッファタンク出口の水より、若干の白濁を確認した事象を受け、同系の運転を停止し、クロスフローフィルタの開放点検を実施した上で、本年5月にフィルタエレメントの交換を実施し、B系の運転を再開した。
 - ✓ 一方、本年6月5日に、上記と同様の白濁事象が増設ALPS(C)において確認されたことから、C系の運転を停止した。白濁の原因が未だ特定できていないため、今後C系についても、同型のフィルタエレメントへの交換及びクロスフローフィルタの内部確認を行う予定である。
 - ✓ なお、クロスフローフィルタにおけるCa濃度が、管理目安である10ppmを超えた場合にフィルタエレメントを交換することとしているが、今回10ppmを一時的に超えた際においても、増設ALPSの除去性能には影響は出していない。
 - ✓ 今後も、引き続き白濁の原因調査を実施する。
 - 高温焼却炉建屋（以下「HTI」という。）における地下環境調査の結果について
 - ✓ 本年5月20日～28日のうち、準備・片付け、予備調査、機材調整を除いた3日間で、今後のHTI内部に残存するゼオライト土囊の処理に向け、水中ROV（Remotely Operated Vehicle）を用いて、同建屋の地下階の調査を実施した。
 - ✓ 今回の調査の目的は、ゼオライト土囊の目視確認、ゼオライト・活性炭土囊の詳細位置の特定、エリア線量の測定であり、調査の結果、今後の回収方法等に資する詳細な位置データ等を採取できた。詳細は以下のとおり。
 - ◇ 水中と空中を同時に目視確認できたことにより正確な土囊の位置と数を確認できた。また、土囊の多くはスラッジに覆われているが、比較的形をとどめていることを確認できた。
 - ◇ 濁りが大きい場所については、ラインレーザーにより土囊の詳細位置データを採取できた。
 - ◇ 今後の土囊の回収作業に大きな支障となる干渉物がないことを確認できた。

- ◇ HTI 地下階における水面の線量は、約 40～180 mSv/h で分布しており、水中に沈降している土嚢表面の約 4,400 mSv/h よりは大幅に低いことを確認した。
 - ✓ 今後は、今回の調査結果をより精査し、HTI 地下階の 3D マップを作成し、土嚢や障害物の詳細位置等を反映していく予定である。
 - ✓ なお、プロセス主建屋についても、今回と同様の調査を今月より計画している。
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメント等を行った。
 - 増設 ALPS のクロスフローフィルタ不具合事象については、白濁部分の分析結果を含めて、引き続き原因調査の状況等を説明すること。
 - 土嚢の回収に向けた今後の調査内容やプロセス主建屋地下階の環境調査結果についても、とりまとめ次第説明すること。

6. その他

資料：

- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況、運転計画(2021年7月2日～2021年8月5日)
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について(2021年7月2日～2021年7月15日)
- 福島第一原子力発電所における固体廃棄物について(2021年7月16日)
- 増設 ALPS(B)クロスフローフィルタ交換および増設 ALPS(C)クロスフローフィルタ不具合事象の報告
- HTI における地下環境調査の結果について